

避難対応

東北大学災害科学国際研究所調査報告
令和2年7月豪雨による山形県内の対応

東北大学災害科学国際研究所
佐藤翔輔

調査協力:山形県自主防災アドバイザー・細谷真紀子氏



川端地区の避難行動



佐藤輝夫氏
川端地区・区長(80代)
水位観測員(朧気川の水門管理)
今回:床下浸水

※1967年羽越水害を20代経験
(当時は床上浸水)

- 対応過程:区長としての全戸呼びかけ
 - 16:30頃 高齢者等避難開始・避難準備情報を認識
 - その段階では「いつものこと」と大丈夫だと思っていた。
 - ただ、見ているとゴミが沢山ながれきて、いつものと水の出方が違うと思うようになった。
 - それから、地区内の各世帯を回ってと声をかけ回った。
 - 逃げない人もいたが、何回も回って逃げてもらった(3週ぐらい)
 - 18:00までには、地区内・全9世帯 全員が避難所に避難完了
 - 22:00頃 90代男性とその息子が、自宅に戻ってしまう
 - 22:30 自身も避難
- 過去の経験
 - 羽越水害後に堤防が整備されたが、それでも心配だった。
- 行政の対応に対する評価
 - 役場の対応は、いままでにないぐらい早かった(避難情報)。
 - 19:30の避難指示:ふだんは鳴らないサイレンが鳴ったの聞いて、まだ逃げていない町民も危機感をおぼえ逃げてきた。



大石田町の対応



高橋慎一氏
大石田町総務課・課長

- 河川水位の予測値と過去実績を活用した「前倒し」の避難情報
 - 12:30 国交省システム「最上川中流水位予測システム」にて、17mを超えるという予測値(7/29 2:00-3:00頃)を覚知。これはただごとではないと認識。
 - 過去の災害実績にてらして、過去最大(羽越水害)を上回ることを確信(過去最大は1967年羽越水害 16.87m)
 - そうであれば、早め早めに対応すべきだと判断・対応した
 - 発令基準にいたる前に避難情報を発令
 - 16:30 高齢者等避難開始・避難準備情報の発令
 - 18:00 避難勧告の発令
 - 19:30 避難指示の発令
 - 普段使わないサイレンも使用。
- 熊本・球磨川の氾濫に関する報道が活きた
 - 「日本三大急流、球磨川だけでなく、最上川も」という報道の影響が自分にも住民にも影響した



